

第5・6学年 家庭科

児童の実態（7月現在）

<p>＜実態の分析＞観点別結果の分析</p> <p>○関・意・態度→どの題材においても、興味関心が高く、大変意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○創意工夫→家庭生活と関連付けて考えをめぐらし、新しい方法や手段を見つけることを苦手とする児童がいる。</p> <p>○技能→細かい作業にも根気よく取り組む児童がいるが、なかなか進まない児童もいる。</p>

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材計画や、本時の目標について明確に示す。 	<p>[指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活と関わらせながら学習に取り組めるように、目標を明確に示す。 	<p>[補充的な学習指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業の進み具合に応じて、児童同士で進めるグループや指導の必要なグループに分け、学習効果の向上を図る。 ・個別に指導が必要な場合は、休み時間や給食準備中の時間を活用し、支援にあたる。
<p>[学習形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材に合わせた形態を考え、安全に学習ができるようにする。 	<p>[学習形態の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習、グループ学習、個別の学習と常に学習効果を考えながら進め、安全面の配慮を忘れない。 	<p>[発展的な学習指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ミニ先生」を教師が依頼し、分からない児童や作業が遅れがちな児童への支援をする。そのことは自分自身の能力向上にも繋がる。 ・作業が早く終わった児童には、自分自身で新たな作品作りができるように、型紙や刺繍の図案、布などを用意し、積極的に手の巧緻性が高まるようにする。
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問内容を吟味し、指示をはっきり伝える。 ・黒板やICT機器の活用を図る。 	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される質問についてはプリントやICT機器を活用し、分かりやすくし、安全面での配慮を怠らない。 	
<p>[教材の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習に臨めるようにする。 	<p>[教材の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> 段階・完成見本を準備し、個々の児童が自分で学習を進められるようにする。 	
<p>[評価の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察を怠らないようにし、「チェックシート」への記入を心掛け、次時へ生かす。 	<p>[評価の工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察による評価や、ノートやプリント記述による評価、テストによる評価を行う。 	

<p>＜評価・修正＞</p> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充的な学習指導の手だての一つとして5学年「ミシン学習」時に保護者ボランティアに参加してもらったことは、細かい点の理解や技能向上に大変有効であった。 ・6学年「こんだて作り」の学習成果を給食の献立として採用し、実際に味わうことができたことは児童の関心・意欲を高めるために有効であった。
